

# Step House

ニュース



矯風会ステップハウス

Tel 03-3364-3133

Fax 03-3364-1866

e-mail k0101step@yahoo.co.jp

寄付金の送付先

郵便振替口座 00130-8-564245

加入者名 矯風会ステップハウス

NO.16 JUN.2017

## ステップハウスからの旅立ち

2016年はステップハウスでも様々なうれしい出来事がありました。

その1つが、6名の方が 都営住宅に当選したことです。住まいを得ることの安心感は今後の生活を考える上で大きな希望につながります。公営住宅は設備はもちろん住環境など都心のアパートに比べ余裕があることも魅力です。応募が開始されるとスタッフは募集要項と地図のにらめっこです。場所を選ぶ際の優先事項はご本人の安全であることに変わりありませんが、様々な事を想定しながら当選を目指しアドバイスをします。過去のデータを研究するのはもちろんですが、何よりも長年に渡り培ってきた、熱心なスタッフの経験と勘！がやはりものを言うのです。下見の同行もすることがあります。交通の便や駅からの所要時間、スーパーや公共施設へのアクセスなど。これほど必死に住宅の確保にチカラを注ぐのは、単に住まいが見つかるということではないそれ以上の意味があると考えるからです。



←元入居者さんの絵手紙が、全国女性シェルターネットの27年度広報で紹介されました。

暴力をはじめ、病気や障がい、高齢であることも女性であるがゆえに負わなければならない困難があります。理不尽な暴力や社会制度の狭間で受けた困難な状況はどの方にとっても不本意であると思います。その状況からさらに前に進むために、自分の安全な居場所を得ることは何にもまして大きな安心感になる、生活再建の土台になると思っています。

また、昨年度は東京都のアドバイザー派遣事業の助成によりアドバイザーをお迎えし、被害者支援に関する研修としました。困難な課題を抱える状況から次のステップに向けての支援の課題や関係機関との連携についてスタッフで検討できたよい機会となりました。一人暮らしに向けた、利用者対象のプログラムとして、クッキングレッスンや護身術ワークショップなども行いました。

最後になりますが、矯風会のミッションである女性と子どもの人権を守る福祉事業に様々な形でご理解とご支援いただきました皆さまに感謝申し上げます。トラウマ等の回復をサポートして今年で17年目を迎えました。回復には何よりもご本人のペースを尊重し、日常生活を大切に、お1人ひとりへの丁寧な対応を心がけています。

来月には都営住宅に転居する方が続きます。暴力からの避難、離婚、就労など課題に向き合ってきた方ばかりです。1つをとってみても大変なリスクとストレスを伴う経験ですが、困難に向き合った経験を力にし、新しいステップへ一歩踏み出す姿を見送れることほど、スタッフとしてうれしいことはありません。

(松浦薫 矯風会ステップハウス所長)

# ステップハウス退居後の暮らし

ステップハウスに入居した女性たちは、6ヶ月をめどに、退居後の生活に向けた準備を進めています。  
**2000年の開設からこれまで476人がステップハウスを巣立っていきました。**皆さんの生活を紹介します  
 (個人を特定するものではありません)

## アパートで一人暮らしを実現

入居中に離婚が成立し、1人で暮らしています。狭い部屋ですがインテリアを考えるのが楽しいです。



職業トレーニングを受けています  
 障害者就労支援施設で木工を担当しています。ステップバザーにも販売に来ています。



## 日本で暮らせることになりました

入居中に定住に必要な手続きを進め、宿直ボランティア宮澤さんから日本語を学び、丁寧な日本語を仕事に活かしています。



## 専門学校に入学しました

入居中に自分を振り返る事ができ、一念発起、パティシエを目指して、お菓子の学校に入りました。



## 施設で共同生活をしています

グループホームでみんなと一緒に暮らしています。相談がいつでもできる支援員さんがいるので安心です。



## 就職しました

入居中に安全を実感できたことで自信が持て、新たな仕事にチャレンジする事ができました。

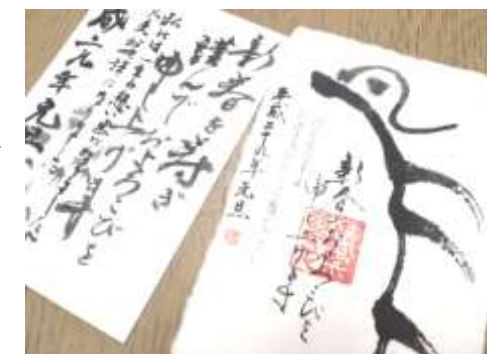


## サービスを利用して地域で生活

入居中に地域支援につないでもらい、ヘルパーやデイサービスを利用してながら暮らしています。




実家に帰りました  
 退居後の行き先を検討していたところ、音信不通だった親族に会えました。年賀状で近況を報告します。





# 女性たちの未来

ステップハウスを出られて2年になるAさんへインタビューをさせていただきました。  Aさん  スタッフ

早いもので2年が経ちましたね。

いろいろありました。アパートに出てから、わりとすぐ働き始めましたので、忙しくしていたのですが、実はようやく離婚が成立しました。

かかりましたね。大変でしたね。

ホッとしたと言うより、何か力が抜けてしまいました。

この間どなたかにご相談はされていましたか？

地域の婦人相談員の方に相談できたのがとても助かりました。

新しい環境に変わられて大きな変化を感じていらっしゃいますか？

離婚が成立したあとは、しばらく起き上がれなかったです。何も手を付けられなくて、そのことで自分を責めてしまいました。今感じるのは、以前のような、生きている実感がなくて、これからどう生きていこうとか考えられなかったあのときとは違ってきたと感じています。

Aさんが大変な暴力被害から避難されてきた中で、PTSDの症状も強かったですよね。そこから離婚調停を終えられたなら当然の状態になると思いますよ。担当のドクターやカウンセラーの方にご相談はされていたのですか？

実は、転居後長い間通っていた病院がなくなってしまって、次の病院を探していたのですが、離婚調停とも時期的に重なってしまって病院が遠のいてしまったので。体調は悪いのに仕事しなければと焦るばかりで辛かったですね。

いろいろ重なってしまいましたね。

地域の自助グループには時々出かけていたのでそこでの相談もとても助かりました。仕事の対人関係でも少し悩みがあって。

自助のグループは、ステップハウスにいらっしゃるときから続いているのですね。トラウマの症状があると対人関係も敏感になってしまうといわれていますが、相談できたのはよかったですね。

少し離れた家族にも相談してみたら、職場の人間関係は、少し距離を持って無理をしないように言われました。私もそのようにしたいと思っていましたから。

Aさんの考えを理解してもらうことと、身近な方の支えはとても重要ですね。Aさんにとって安全な環境をつくっていくことが大切ですよ。いま、どのような時間を過ごしていると楽しいですか？

ステップハウスでは手芸が楽しかったですね。手編みにトールペイントやデコパージュ、とても気分転換になりました。今はまだ集中して何かに取り組むことは出来ないけれど。

Aさんのペースでいいと思いますよ。あせらずに。

Aさんと初めてお会いしたのは暴力被害の直後でしたが、ご本人がおっしゃるように生きている実感を感じられない、恐怖で動けないそんな苦しい期間をステップハウスで過ごされました。そのような中で朝起きて、3食の食事と掃除や洗濯等、日常生活を心がける中でAさんのペースで過ごされました。芯のしっかりした素敵なAさんが2年前とかわらず一層素敵になられて、今回お会いできたことを嬉しく思います。新しい生活は大きく環境の変わることですが、ご自身のペースで歩んで欲しいです。

# 退居者とのつながり

退居しても、元入居者とスタッフとの交流は続きます。どのような関係を構築しているのか、スタッフの柏谷がお届けします。

## 退所者とのつながり;手作りの思い出

ステップハウスの支援者として5年がたちました。その間、たくさんの方を次のステップへと送りだしてきました。

入居したての時はカーテンを閉めて、テレビもつけず、暗い眠れない時間を過ごしていた方も、時間がたてば少しずつ本来の自分を取り戻されてきます。そうなれば、次のステップへの転居先探しとなります。転居先が決まれば、みなさん嬉しそうな笑顔を見せてくれます。でも、いざ転居が近づくと不安になり、「今まで守られていたんだ」と気がつく方が多いようです。支援者としては、次のステップがなだらかに繋がるよう、グループ、保健師、医師、弁護士などとの連携し、必要なときに相談ができるようにと心がけています。

アパート転居のときは、即必要なトイレトペーパー、ティッシュ、お米、洗剤などや、お鍋、食器、電気製品、バスタオルなどその時あるものをプレゼントしています。そして、一人暮らしの最初は寂しいだろうと思い、転居して2～3日後には届くように手紙を差し上げています。お正月には年賀状を。

そんなこちらの気持ちを察知されてか、退所されてから電話や手紙で近況をお知らせくださる方や、お菓子などを送ってくださる方もおられます。ステップハウスで「ゆっくりした時間を共有した思い」があるからこそだと思っています。本当にありがとうございます。

最近では、暗い不安な思い出ではなく、ほっとする思い出をたくさんつくろうと、餃子が作りたいと聞いたら餃子を一緒に作り、桜が咲けばおにぎりを作ってお花見へ行き、ひな祭りには折り紙でお雛様を作りお寿司を食べ、その時々のお金をかけない楽しみ方をしています。そして、ステップハウスのあちこちには、花壇で咲いた野の花などが飾られています。

少人数だからできる、女性たちの「心の実家」になればと願っているところです。

もちろん、忘れてくださってもいいのですよ。





# ステップハウスを支える人々

ステップハウスは行政からの補助がなく、多くの人に支えられて運営しています。入居中の女性たちの暮らしを豊かにしてくれている皆様を紹介します。

**日本語教室**  
宮澤さんに「あい  
うえお」から習っ  
ています。2016  
年度は25回開  
催、17年で447  
回になりました。



**絵手紙教室**  
林さんと自分の  
気持ちを絵や文  
字で表現。2016  
年度は8回開催し  
ました。



**ヨガ教室**  
細田さんと心身  
をリラックスして  
います。2016  
年度は10回開  
催しました。



**メイク教室**  
田島さんに美魔  
女の秘密を伝授  
してもらいました。  
2016年度は4回  
開催しました。



**ランチクッキング**  
そねさんと本場  
の韓国料理を作  
ったり、ひな祭り  
でちらし寿司を  
食べました。



**お花見**  
おにぎりを作っ  
て、みんなで食  
べました



## 寄付・献品

皆様からの寄付・献品が、季節のイベントに彩りを添えてくれています。

■UBS証券株式会社様から、各部屋へのTV、ならびに衣類をダンボール約100箱、他多数の献品をいただきました。

■東京善意銀行様のご紹介により、モンテ物産株式会社様からクリスマスケーキを、株式会社リクートライフスタイル様からおせち料理とマグロセットをいただきました。

■カナダ合同教会からウィンドクーラーと冷蔵庫をいただき、入居者のお部屋の環境が整いました。

■日本福音ルーテル東京教会で、今年もチャリティコンサートを開催していただきました。

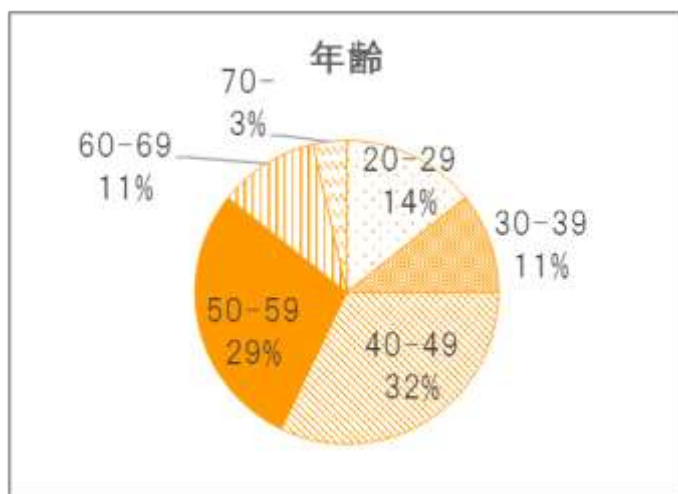
■公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団様からクラシックコンサートご招待券をいただきました。

■矯風会神戸グループ様から、皆さんにお配りするクリスマスプレゼントをいただきました。



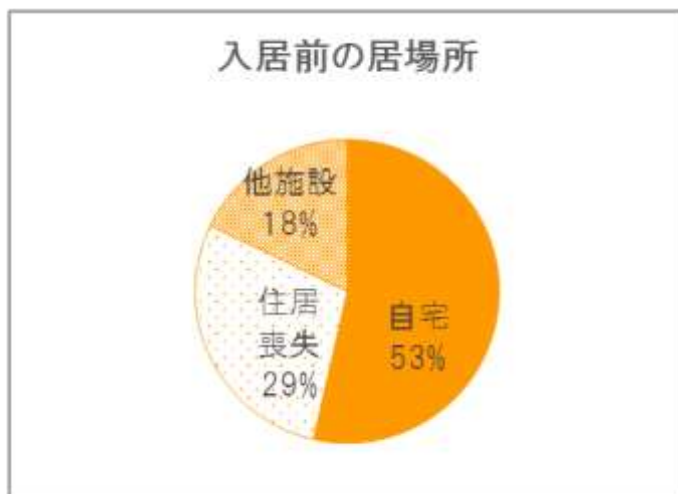
# ステップハウス利用状況

ステップハウスは、DV(ドメスティック・バイオレンス パートナーからの暴力)、家族からの暴力、思いがけない妊娠・出産、望まない性産業への従事、依存症、低賃金・不安定雇用・不当解雇等、様々な理由から安全な居場所を失った女性たちが入居し、生活を立て直す「場」となっています。2016年度中に入居した28名が抱える状況を、データでご紹介します。



## あらゆる世代が利用しています

「DV」や「予期せぬ妊娠」は、「若年女性の問題」と認識される事が、少なくありません。しかし実際には、あらゆる世代が、暴力や望まない性的出来事に遭遇するリスクを有しています。2016年度は、60歳以上で入居した方が、14%にのびります。長年に渡り、困難を抱え続けて、ようやくステップハウスにたどり着いています。相談機関の存在が多くの人に知られ、早期の相談につながる仕組みが必要です。



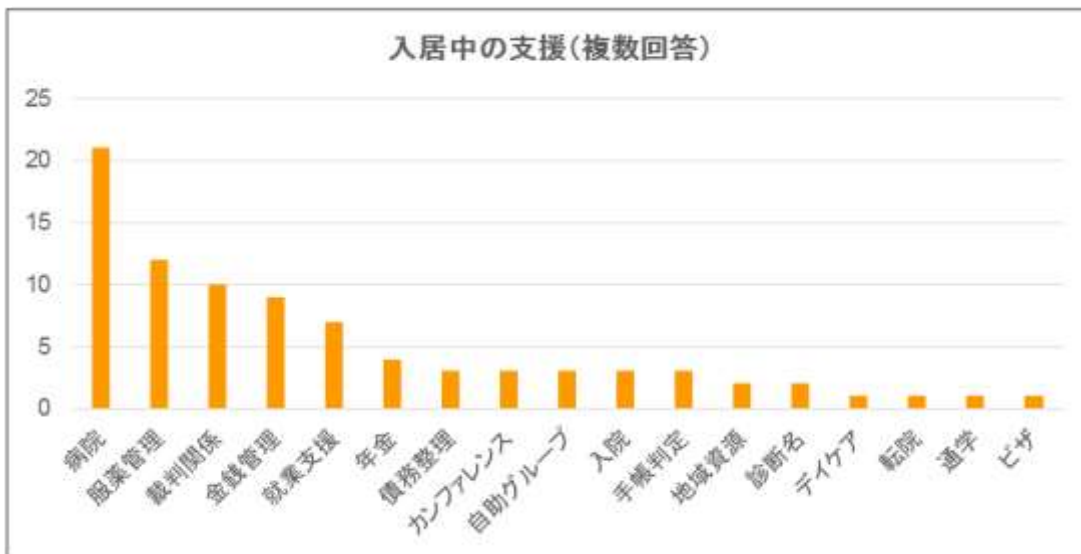
## 約半数が住まいを失っています

「ホームレス」というと、たいていの場合、男性のみが想定されます。しかし2016年度にステップハウスに入居した女性の47%は、「住居喪失」もしくは既に住まいを失い、「施設」で暮らしていた方です。路上で暮らす女性は決して多くありませんが、「実質的に住まいを失っている」女性は、「見えないホームレス」として潜在化しています。住居施策は、女性福祉における重要な課題です。

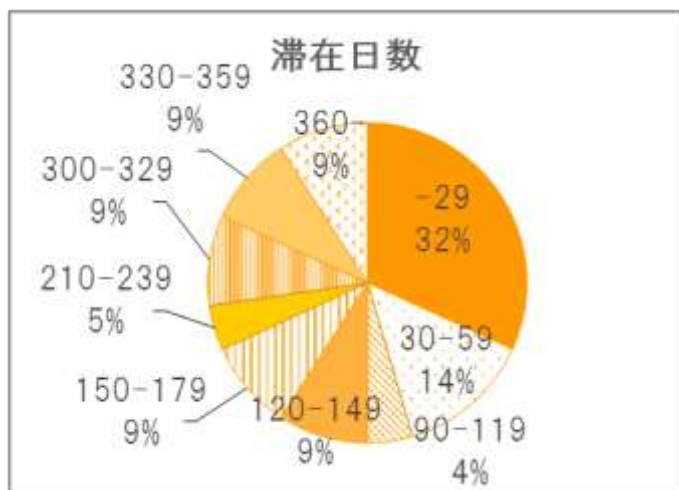


女性に対する暴力が絶え間なく起きています。ステップハウス開設から16年が経ちますが、入居理由のトップは、常にDVです。夫やパートナー、さらには親、そして法制度の対象になりづらい「兄弟」まで、女性は人生のあらゆるステージで、暴力に遭うリスクを抱えて生きています。



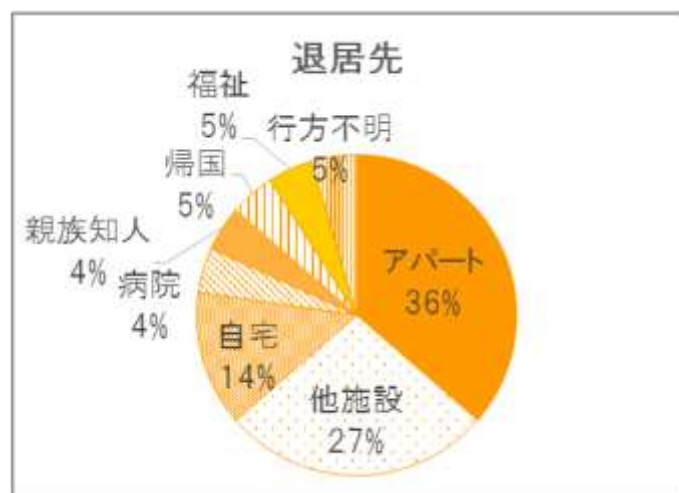


「ちょっとした支え」で暮らせる人がいます  
 「1日に使える金額を確認してもらう」「初めて行く場所に同行してもらう」等、見守りがあれば地域で暮らしていかれる方がたくさんいます。しかし現状の法制度では、その実現は難しく、施設での生活を選択せざるをえない方もいます。



#### 先の見えない日々を過ごしています

2016年度の平均滞在日数は、157日でした。しかし内訳を見ると、「2ヶ月以内」が45%、「半年以上」が32%と、「短期」「長期」に二極化しています。短期の場合、落ち着かない状況の中で、施設を転々とする事になります。一方長期化する方は、「裁判が終わらない」「施設の空きがない」等、将来が見通せない境遇に置かれています。心身の安定につながる「暮らしの場」の提供が求められています。



#### 入居時には想定していなかった退居先に向かう人もいます

暴力から逃れて、ステップハウスにやってくる女性は、これまでの人生や自分自身の今後と向き合います。その結果、「施設」や「病院」等、より一層のケアを受け、心身の回復を目指す選択をする方や、行政の福祉担当により、行き先を再検討する方もいます。思いがけない人生を歩む事になった女性への、切れ目のないサポートが、女性の人権回復において、大切です。

#### 入居者を支えるための研修

入居者が安全・安心を感じて退居後の生活を考えられるよう、研修や講座を通じて、職員や宿泊ボランティアのスキルアップを目指しています。

- ・カナダ合同教会から助成を頂き、非常通報装置を設置、防犯訓練を実施しました
- ・女性センター新人研修
- ・宿直ボランティア「安全研修」(日工組社会安全財団)
- ・講演会「薬物依存の実態」



# 女性の笑顔を生み出すためにあなたが今できること

暴力等で傷ついた女性たちが、もう一度自分の足で人生を歩めるよう、活動を支えてください。

2016年度の寄付総額は、3,582,184円でした。皆様のおかげで、入居者さんへのケアを充実させることができました。

ステップハウスは年間2000万円の予算で運営しています。行政からの補助金はありません。引き続きあたたかいご支援をよろしくお願いします。

## 洋服ポスト

2016年度に集まった衣類は6トン、寄付総額は60,580円になりました。着なくなった衣服や、使わなくなった小物等を回収し、経済途上国に送っています。洋服1kgあたり10円が、私たちへの寄付になります。



## 矯風会バザー

2016年度の売上の総額は30万円でした。ボランティア恵(かりす)の会の皆様が、販売品の仕分けや値段付け、当日の販売を担ってくれています。



## ステップハウスの3つの役割

STEP・・・女性たちの「Safety(安全)」「Trust(信頼)」「Equality(平等)」「Power of Recover(回復の力)」

↓この絵葉書と習字は、入居する女性たちが、絵手紙教室で作成したものです



### 安心できる 居場所の提供

ステップハウスに入居してくる女性の約半数は、住居を失っています。安定した住まいがなければ、自分の心身の安全を守ることが難しく、仕事にも就けません。ステップハウスは、身体だけでなく、精神にとっても「居場所」となるよう、つとめています。

### 暴力被害からの 心の回復のサポート

ステップハウスに入居してくる女性の多くは、パートナー、親、きょうだい等、身近な人からの暴力を経験しています。ステップハウスは、暴力のない生活が当たり前の日常になるよう、おだやかな時間を提供し、医療につながるお手伝いをしています。

### 新しい生活に向けた 準備のサポート

ステップハウスへの入居時点で、仕事に就いている人は、わずかです。働くことが許されない環境で暮らしてきた女性もいます。ステップハウスでは、本人の心身の状態に合わせた仕事探しや、継続した就業ができるよう、サポートしています。